



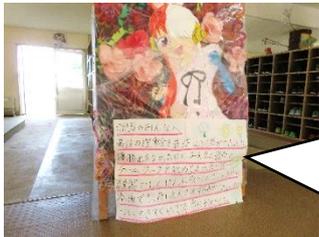
泗水小だより



泗水小学校
学校だより No10
文責 芹川博文
6月23日(金)

学校教育目標「自ら考え なかまと高め合う 泗水小」

子どもたちが 泗水小を変える！ 新しい風が吹き始めました ～ 運動会后1カ月、6年生を中心に動き出した泗水小 ～



赤団の皆さんへ
最後の運動会を最高にすることができました。優勝できなかったけど、みんなと最高のチームワークを組めてよかったです。練習で真剣に取り組んでくれたから本番でも良い演技をすることができました。ついてきてくれて本当にありがとう!!
(青団、白団もメッセージ付きで児童玄関に飾られています。)

「君たちがこの泗水小を変える。」6月16日(金)、6年生の各教室でこのことを伝えました。縦割り班による無言掃除の姿に、あまりにも感動したからです。掃除中の真剣さと静けさ、最後の振り返りの時の下級生の手の挙げ方、掃除を終えて教室に戻る子どもたちの充実した表情。そこには、「自分たちでここまで出来るんだ」という達成感が伝わってきました。

私も含めて大人は、子どもの持つ力(潜在能力)を過小評価してしまうことがあります。つい手や口をだし過ぎて手伝っているつもりが、子どものやる気を削いでいることがあります。任せることで子どもたちは力を発揮します。多少困っても自分たちで解決していく力をつけてほしいものです。



運動会が終わって約1ヶ月。各団でリードしてくれた6年生は、児童会活動や日常生活の中で生き生きと下級生をリードしてくれています。はつらつとした表情や行動に、こちらでも元気をもらいます。

6年生だけではありません。毎朝1年生の歩く速さに合わせて教室まで一緒に連れてきてくれる上級生など、「子どもってすごいな」と感じる場面が多々あります。日々の生活の中で、子どもたちは成長しています。



廊下を走る人が減ったら、あいさつをする人が増えました

4月からスタートしてまだ3ヶ月もたっていませんが、確実に廊下を走る人が減ってきました。(最初は、なぜこんなに走るのか驚きました。)これは、児童会(生活・安全委員会)活動も効果を発揮しています。下の写真は、廊下を歩いている人に「メダル」を渡しているところです。紙のメダルではありますが、これがなかなかの力を発揮しました。特に低学年には抜群の効果でした。

廊下を走る人が減ったら増えてきたものが「挨拶」です。最近自分から挨拶する人や、立ち止まって挨拶する人も出てきました。まさに「相乗効果」です。

「たかが挨拶、されど挨拶」です。気持ちの良い挨拶ができる人は、大人になっても違和感なくできることでしょう。いつの日か、泗水小と言えば、「あいさつが素晴らしい学校」となる日を思い描いています。

新しい風を感じる今日この頃です。



本気で遊ぶ子どもたち 朝の風景

始業前の朝も大事な「楽しみタイム」です。

